

事前質問事項一覧

■戦略2-2 みどりを育み活かすまちづくり

No	確認事項	回答	委員名	担当課
1	市民団体等の協働による環境フォーラム・環境学習講座の内容は。	白井環境フォーラムは市内の環境関係団体で実行委員会を組織し、夏季体験活動、ふるさとまつり、各環境団体等における活動のパネル展示などを開催した。 夏季体験活動は8月に小学生(47名)を対象に、手賀沼流域フォーラム全体企画「手賀沼流域7市巡回野鳥写真展」の開催に合わせ「ダチョウのひみつ&バードグライダーを作ろう」と題し、ダチョウの骨格標本を組み立てながら鳥の生態や飛ぶ仕組みなどについて学んだ後、工作でバードグライダーを作成した。 10月開催のふるさとまつりに参加し、来場者(子どもから高齢者まで)を対象に電気自動車のPR、市内に生息する水生生物の展示、田んぼに来る生き物の足跡から生き物を当てクイズ、白井の残したい自然や施設に関するアンケート、啓発物資の配布等を行った。 1月開催のパネル展示では、保健福祉センター1階ロビーで市内の環境関係団体、市内幼稚園、小学校、千葉県生物多様性センター、企業等14団体がそれぞれの活動、取組の紹介などのパネル展示を行った。 環境学習について、市内幼稚園、市民団体4団体と共催で行っており、けやき台調整池に作ったビオトープで主に小学生(未就学児含む)の親子を対象に生き物観察や稲作体験、収穫後のわらを使ったしめ縄づくり、季節ごとの自然観察を4回行った。 八幡溜で小学生等を対象にミナミメダカ等の在来魚の繁殖ができるよう、作った田んぼで緑米の作付け体験を2回行ったほか、神崎川で夏休み親子観察会を行った。 谷田の市有地で一般を対象にした里山学校を2回(菌根菌と野の花調べ、ジャノメチョウのモニタリング)行った。また、桜台小学校1年生の生活科の授業に、秋のおもちゃ作り用のドングリの採集や昆虫採集、観察会を行った。 市民団体の他、東邦大学、印西市と協働で小学生の親子を対象に子ども里山学校を2回(秋の昆虫類の観察と外来植物の駆除等)開催した。 下手賀沼で船上観察会に合わせ参加者が手賀沼の水を採取しパックテストにより水質の測定を行った。 夏休みに環境関係施設の見学を行う夏休み子ども環境学習については、新型コロナウイルスの関係で4年度は開催を見合わせた。	近藤委員	環境課
2	白井市の自然環境を体験するような学習は市内全小中学校で行われるのが望ましいと思うが毎年行われているのか、また、どのような環境学習を実施したのか。	小中学校期に自然環境に触れたり、体験することは自然への興味関心を持ち、ふるさと意識を醸成するうえでも重要ととらえている。 SDGsについて、小学校では、総合学習として、講師を招いた公園での自然観察会や梨農家の説明による梨園見学、生活科では、市民団体を講師に招いた谷田地区の原っぱでの自然観察、社会科では市内見学として、小学校3年生を対象に市役所見学の際、環境課で水槽展示している市内に生息する水生生物等についての説明やバスを利用した市内の自然観察を行った。 また、中学校では、総合学習として、農業体験を実施。令和3年度から「脱炭素未来ワークショップ」を開催し、市の未来を担う人材育成につなげる学習を行った。 市内の自然環境を体験する環境学習として、11月4日に桜台小学校1年生の生活科の授業で、谷田の原っぱ(市有地)を会場に、秋のものを使ったおもちゃ作り用のドングリ採集や、昆虫観察会を市民活動団体と行った。	近藤委員	環境課 (教育支援課)
3	市民団体・大学・隣接市との共催で実施した里山学校の内容は。	市民団体と共催で一般対象の里山学校を実施していたが、令和4年度新たに白井市と印西市の小学生の親子を対象にした子ども里山学校を市民団体、東邦大学、印西市と共催で2回実施した。 第1回は10月に谷田の市有地を会場に「秋の昆虫類の採集・観察と外来植物(セイタカアワダチソウ)の駆除を行った。」第2回は、3月に印西市及び白井市の市有地を会場に里山トレッキングを開催する予定であったが雨天のため、「里山遊び(工作教室)」として、ドングリや籐、竹などを使った工作、葉っぱ染めなどを行った。	近藤委員	環境課
4	小中学生対象の森の保全体験型イベントの参加人数は？ これからも実施する予定か。	令和4年度小学生を対象に神々廻市民の森を会場に実施した「森の1日守り隊(森の管理作業体験)」は20名の公募で当日参加者は18名である。 本イベントは千葉大学大学院園芸研究科の学生が演習の一環で企画したもので、平成30年から実施していたが、令和5年度から、演習会場を他に移すこととなったため、今年度の実施予定は現在のところないが、来年度以降に向けて検討していきたい。	近藤委員	環境課
5	谷田・清戸市民の森整備事業の進捗状況は。	当該地区は、民有地と市有地が混在しており、市有地については、市民団体との連携・協働による草刈りや森の枝等の除伐を行った。また、環境保全を目的とした管理や調査を市民団体や東邦大学等と連携して行っている。	近藤委員	都市計画課 環境課
6	谷田・清戸市民の森整備事業は事務事業評価シートを見るとあまり進んでいない気がするが、対処すべき課題の優先順位をどのように設定しているのか。	整備方針(自然保護と活用)や整備区域が確定していないといった課題があり、引き続き、都市建設部局と環境部局で課題についての共有を図りながら整理していく必要がある。	近藤委員	都市計画課 環境課
7	市民としては、そのエリアにゴミの不法投棄をさせず、環境や治安を悪化させず、自然を維持していただくことが最も大切だと思うが、市では環境維持のための予算・人材など確保しているか。	市有地及び周辺道路等の環境維持については、環境パトロールを兼ねた貨物車のリース費用や管理用消耗品等の購入費用により対応している。 また、定期的に不法投棄の夜間パトロールを環境課職員により実施している。 なお、維持管理に係る草木の除草・除伐等の作業については、市民団体と協働で行っている。	近藤委員	環境課
8	【沿道みどりの推進事業 2-2-2-01】 1 48団体への草花苗の購入経費の一部補助については、事業の質の維持を考慮し、物価上昇にともなう補助限度額の引き上げを検討される考えはありますか？	この事業は、市民がみどりを自ら守るという意識醸成を目的としているもので、市民の自発的な活動を支援する補助金であるため、現段階では、物価上昇に伴う限度額の引き上げは考えていない。	福田委員	環境課
9	【沿道みどりの推進事業 2-2-2-01】 2 改善内容に『「しろいまっち」と連携し、さらにみどりのネットワークづくりを進める。』とありますが、具体的にはどのように取り組めますか？ 例えば、単なる事業紹介だけでなく、「48団体の取組場所のマップや見頃時期」の紹介や「現状の様子」などをタイムリーにPRし、市内を回遊してもらう一助にするなどの工夫も効果的だと考えますが取り組み方を教えてください。	この事業の活動団体の紹介については、現在、活動の位置を示した地図の掲示や、植栽状況等活動実績をフェイスブック、環境課窓口で公開し周知を図っている。 更にみどりのネットワークづくりが進むよう、この事業を実施した団体の活動を紹介する媒体や手法を検討したいと考えている。その一つとして、「しろいまっち」と連携し、植栽の様子や花の写真、活動場所、団体の声等を掲載し、団体の活動に興味をもってもらえるように工夫する。 委員のご提案事項については、今後の参考とする。	福田委員	環境課
10	【沿道みどりの推進事業 2-2-2-01】 3 ある団体の声として、「取組団体や担当部署との意見交換の場があると良い」という考えがありました。今後、団体同士の協働を進める上で、このような場を設定する考えはありますか？	みどりのネットワークの形成・意識の醸成は、活動団体同士のネットワークの形成が効果的と考えている。 現在は、活動団体から別の活動団体の状況を知りたいため連絡先を教えてくださいという旨の依頼があった際は、了承を得た上で連絡先を教え、団体同士の連携を進めている。 今後、団体からの要望に応じて意見交換等の場の設定について検討する。	福田委員	環境課
11	【森のグランドワーク推進事業 2-2-3-01】 神々廻市民の森の花壇を管理している団体の声として、2017年度の事業開始以来、試行錯誤しながらも市民に親しまれる花壇づくりが継続できていることは満足であるとのことですが、会員が70~80代であり、重労働な灌水作業に苦勞していることも課題だということでした。週1回(夏場は1~2回)、自宅から持参した水量では足りず、現地の池までの坂道を約15往復しながら水汲みをしている状況なので、できれば灌水に役立つ装置(高額な自動灌水機などではなく、集水屋根付き置き型雨水タンクなど)を花壇の側に設置してもらえると負担軽減になるとのことで、このようなことは把握していますか？ また、このように主体性をもって取り組んでいる市民活動が今後も無理なく、安全に継続できるよう改善策を講じることは考えていますか？	神々廻市民の森入り口の花壇整備は平成29(2017)年度から市民団体の参加を得て開始し、当初痩せ地だった植栽場所の土壌改良等を継続的に行い、現在では市民に親しまれる花壇として維持され、月に1回程度団体と環境課職員が協働で草取りなどの手入れや植栽などを行っている。植栽時の水やりなどは環境課職員が池から水を汲んで行っている。 団体の活動日に間に有志が何回か手入れを行っており、このときに乾燥状況によって水やりなども行っていることは把握しているが、具体的にタンクなどの設置要望等は伺っていない。 活動については、無理のない範囲で行えるよう団体と相談しながら進めており、今後もその予定である。 現在の課題として、団体の高齢化による後継者の育成があるが本団体は市民大学の卒業生で組織された団体であることから、新規加入者がなく、今後活動を継続していくための方策について団体とも相談しながら検討していく。	福田委員	環境課
12	・定性的評価に記載のある、「沿道緑の推進事業」については、ネットワークの拡充とあるが、市民団体の多くは、高齢者がボランティアをしてくださっていると思う。各市民団体の継承の課題については、どのように考える、又は対応しているか。		手塚委員	環境課